参議院議員 東京都選挙区

朝日　健太郎

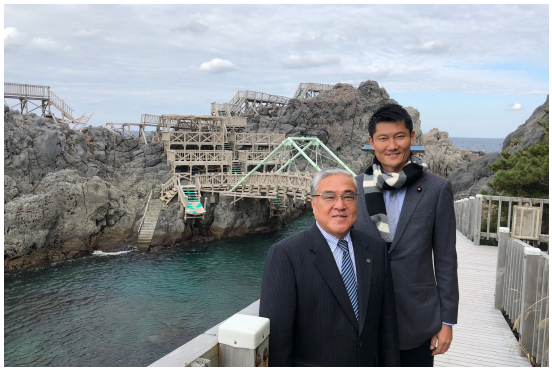
～神津島視察レポート～

東京から
誰もが輝ける社会へ

2017.12

1.視察の目的

東京都の一部である神津島村において、島しょ部の教育・経済・観光・災害等の対策がどのようになされているのかを調査するため、観光対策の一環として行われたジュリアサンセットマラソン大会日程にあわせて視察をした。



浜川村長と川崎遊歩道にて

2.神津島の教育環境

人口が1890名の神津島村において、教育面で公立学校の果たす役割は非常に大きい。しかし、島唯一の高校である神津高校においては定員１２０名に対して３３人の生徒と定員割れの状況にあり、学校運営に少なからず影響を与えているのが実情である。

そのような中、神津高校では２０１６年度から村外からの生徒を募集し、安定的に生徒を受け入れる制度、いわゆる離島留学制度を整え活力のある学校運営に向け力を入れている。２０１６年度は１名、２０１７年度は３名の生徒が島外より入学しており、２０１８年度には４名の生徒が入学予定である。下の写真は、島外生徒の生活拠点となる建築中の男子寮である（現在は完成している。２０１８年２月完成）。ここで寝食をともにし、教育を受けるのと同時に島の魅力を体で感じ、都市部では体験できない時間を過ごす価値は計り知れないものである。島の魅力にひかれて、今後島外からの入学者が増加することを期待したいところである。

離島留学生の男子寮

教育環境で気になる点がもう一つ。神津島には小中高校がそれぞれ一校しかないため、教育を選択する自由が内陸部に比べて制限されている。この制限を少しでも解消するために通信技術を大いに活用し教室内の遠隔授業をリードすることが必要である。ICT教育により、いつでもどこでもだれでも同等の教育水準の授業を受けられる環境を整備することは島しょ部においても十分可能である。島内では、２０１６年に光ファイバーの整備が終了しており、２０１７年から公共施設や各家庭への普及が進んでいる。小学校においては２０１８年度からタブレットを利用した授業も開始される予定であり、今後、ICT教育の発展が期待できる。

また、光ファイバーの整備によって、観光情報の発信や行政サービスのコスト削減など、これまで島の課題となってきた分野もIT環境の整備によって改善されていくこととなるだろう。

３.自然災害対策

2017年には台風が猛威をふるい神津島にも甚大な被害をもたらした。海岸沿いの道は破壊され、また島の海水浴で賑わう赤崎遊歩道にも被害がおよび、海水浴シーズンまでの復旧が急がれる。

離島における自然災害は、地域住民の日々の生活に大きな影響を与えるだけでなく、島の観光資源にも影響を与える問題である。体験型の観光資源に活路を見出そうとしている神津島では、その前提としてまず自然災害の対策を充実させる必要がある。景観を損ねず波浪を低減する離岸堤（潜堤）の改良工事等、国としてもそのための支援をしっかりと進めていくべきである。

台風の被害に遭った赤崎遊歩道

４.神津島の港湾

(1)1島2港方式

伊豆諸島神津島へは、今回調布飛行場から空路を利用し訪問した。前回の伊豆諸島訪問は2017年7月の東京都議会選挙時に夏の新島であったが、今回は寒さ厳しい12月の訪問であった。当然ながら夏の島の状況とは大きく異なり、冬の神津島は偏西風による強烈な影響を受ける。この影響で、西側に位置する神津島港は冬場利用できないことが多いので、東側に位置する三浦漁港が補完的な役割を果たす。そして、この両港は、台風といった海上自然災害時の船舶の一時避難所としての機能をも有している。本島から遠く離れた地域で操業する船にとって、離島に避難可能な港が存在していることは安全性の面からとても重要なことである。

港の経済的な役割についても同様で、夏は市場のある西側の神津島港が機能し、冬は偏西風の影響が小さい東側の三浦漁港が機能する。そして、冬場は三浦漁港で水揚げされた水産物は島の反対側にある市場まで陸路で運ばれる。これまで神津島は西側の1港体制で漁業を営んできたが冬場の漁は困難を極めていた。しかし、東側の三浦漁港が整備され通年で島の基幹産業である漁業が可能となり漁業者の生産性が格段に向上した。

神津島港

三浦漁港

(2)神津島の漁業

神津島漁業の中心となっているのは金目鯛である。神津島近海では良質な金目鯛が捕れる。神津島漁業共同組合によると、神津島全体の年間漁獲量802.407tのうち、553.192tが金目鯛であり（組合データ平成２９年度（年度は１月～１２月））、島の経済を支えているといっても過言ではない。もっとも、この金目鯛資源にも限りがあるので、金目鯛を含めた水産資源の保護を視野に入れながら、資源を持続的に利用する管理体制を適切に構築していくことが神津島繁栄にとって重要なテーマとなっている。

水揚げされた金目鯛

5.観光対策

神津島の海水浴は白砂海岸が特徴で、赤崎遊歩道といった観光資源やキャンプ場といったレジャーが強みである。ただ、こういった観光資源は神津島に限られないのであって、観光産業を主とする自治体は常に新しいレジャーや、時代のニーズに合った観光サービスを提供する必要がある。

今回、神津島村としてはマラソン大会を一つの観光対策テーマとしていた。それがジュリアサンセットマラソンだ。コースは全長１３ｋｍでアップダウンの激しい設定。コース途中の高台から島全体を見渡せるのが最大の特徴である。また、宿泊やアフターパーティーも設定された構成となっており、島の特産品を愉しむ時間、また島民の方と交流する機会など、離島スポーツイベントならではの特徴をもつものであった。神津島村の新しいチャレンジといえる。

2018年には2回目の開催も予定されており、次回は距離を伸ばしハーフマラソンの設定になると聞いている。参加者が再び参加したいと思えるコンテンツになってくれることを期待する。

ジュリアサンセットマラソン大会

6.まとめ

神津島視察で、島しょ部の持つ特有の課題を直視できたことが何より大きな収穫である。特に、港の整備が地域経済に直結し、その活力が地域の魅力となり観光産業へ循環していくモデルは大変参考になった。

地域の成長は、様々な分野において横断的な取り組みが必要である。情報の拡散のスピード、レジャーの多様化などをみても、常に新しいチャレンジをしていくことが重要な時代に入っている。新たな取組みに挑んでいる情熱ある神津島を、今後も精いっぱい応援していきたい。

以上

参考文献

（2015）「東京都観光まちづくり取組事例集　平成26年度」東京都産業労働局観光部振興課
（2016）「伊豆小笠原諸島の港湾・漁港・空港・海岸」東京都港湾局離島港湾部
乾　政秀（2014）「小さな離島の暮らしと漁業【6】東京都・神津島」『海洋と生物』vol.36,生物研究社
「神津島村教育委員会」神津島村役場ウェブサイト＜http://vill.kouzushima.tokyo.jp/profile/education.html＞

朝日健太郎事務所作成　2018年3月

ご意見・ご質問等いつでもご連絡ください！
参議院議員　朝日健太郎事務所
〒100-8962東京都千代田区永田町2-1-1参議院議員会館620号室
ＴＥＬ　03-6550-0620　ＦＡＸ　03-6551-0620